

議会だより

CONTENTS

2020.11.1 vol.68



- 2 … 9月定例会 ここに注目!
- 5 … 常任委員会レポート
- 6 … 9月定例会で審議された案件
- 7 … 一般質問
- 11 … 意見書
- 12 … 平戸の子カラ



鏡川町に移住された井上さんご家族

と
か
い
せ
ん

No.68 2020.11.1 平戸市議会だより

編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170 FAX22-3427 E-mail: gikai@city.hirado.lg.jp



このコーナーでは、平戸市にU・Iターンし、地域で元気に頑張っている皆さんをご紹介します。

豊かな自然と史跡の中で生活しているような環境。平戸の魅力を伝えたい。

井上翔一郎さんご家族は、福岡市西区から2018年に平戸市鏡川町に移住して来られました。現在、学習塾を経営している翔一郎さん。子育てにより環境を求め平戸へ来られたご家族を紹介します。



学習塾にて

●子育てのため移住を決意

2018年3月に福岡市から平戸市に移住して来られた井上さんご家族。福岡市の進学塾『英進館』に勤めていた翔一郎さんは、今では恒例となった『英進館』平戸春夏合宿の引率で何度も平戸を訪れる中、「子育ては自然環境のよい平戸で」という思いから、長男瑛一郎くんの誕生を機に移住を決断。合宿を通じ交流があった平戸の人々に移住相談をしながら、妻玲奈さんと瑛一郎くんとともに鏡川町に移住されました。移住後、平戸に住む翔一郎さんご家族を何度も訪ねていた東京在住の父浩志さんも、昨年末に浦の町へ移住。豊かな自然の中、お孫さんと過ごす時間を楽しんでいます。

●世界観が変わった「漁師体験」

「初めて平戸に来た時に経験した漁師体験が衝撃的でした」と語る翔一郎さん。「都市部でサラリーマンをしていた私にとって、漁業をはじめ第一次産業のスケールの大きさ、自然の中で仕事をする、命をいただく、命の根源とともに生活するという姿に世界観が変わりました。平戸の方は日常なことと感ずるかもしれませんが、第一次産業は人間の生活の本質で、それらを近い距離で感じ体験できることに価値があると思います。都会で暮らし、こうした自然の偉大さや人間の本質を知らずに生きていくことは、非常に狭い世界で生きていくことになってしまうのではないかと危惧しました」と移住に至った体験を話します。

●平戸での生活

「このコロナ禍で、地方の魅力に世の中がますます注視しているのではないかと話す翔一郎さん。「都会の子ども達は教科書を見ながら机上で知識を必死に積み重ねている。一方で平戸では、それらを実体験できる環境があり、日々感動している。平戸には歴史があり、自然があり、それらを感じながら生きていくことができる」と教育の観点や日常生活の中から、平戸の魅力を感じています。



昆虫採集に夢中

●今後の目標について

学習塾田平町の講師や田平町の飲食店『夕やけ食堂』の経営者は翔一郎さんの福岡在住時のご友人。「都会と繋がりのある私が平戸の魅力を伝えることで、新たに平戸を知る人が増え、人を呼ぶことにつながる。そしてまた、異なる視点で平戸の魅力を発見してもらおう。より平戸の魅力が向上するようなビジネスやマッチングにつながると思います。それが、平戸に住む私の役割だと思います」と力強く語っていただきました。



夏を満喫

広報特別委員会

委員長	池田 稔巳
副委員長	松尾 実
委員	井元 宏三
委員	近藤 芳人
委員	山崎 一洋
委員	山本 芳久

7年8か月の安倍政権が終わり、菅政権へ。安倍政権はアベノミクスを掲げて登場しました。菅政権は「自助、共助、公助」を掲げ、安倍政権を継承する、とのこと。そして、最初の世論調査での支持率は60%超です。

コロナ禍で、国民のくらしは大変です。国は、「ひとり親世帯への給付金」などの対策を行っていますが、菅政権には、支援を強めてほしい、という期待もあるのではないのでしょうか。

また、地方自治体の「第一の仕事」は、住民の命とくらしを守ること。市民のみなさんがコロナ禍を乗り越えていけるよう、市議会も、さらに努力したい、と思います。(山崎 一洋)

編集後記

